



市民の力で設立され、支えられる

社会福祉法人 清水あすなろ福祉会

# 法人だより

福祉情報を発信します

風の子保育園・あすなろの家・ともの家

No.29 2022年10月20日  
(令和4年)

静岡市清水区山原 871-2  
Tel 054-363-2046  
Fax 054-363-0522

## コロナ感染拡大防止 と 施設利用者の利便 との狭間で・・・

# 職員の皆さんの自己犠牲的な職務の遂行に 感謝！

新型コロナウイルスの第七波は、ようやくピークを過ぎて、沈静化に向かっているように見られます。この間、あすなろ福祉会の三施設は、感染拡大に直面しながら感染の防止と、利用者の利便性をどのように維持するかで、大変苦しい運営を続けてきました。

職員の皆さんには、この間、自己犠牲的に職務を遂行いただき、理事会として心より感謝申し上げます。



理事長 杉井則夫

### 防護措置を無視するかのごとく 感染が拡大したあすなろの家

残念ながらあすなろの家では、クラスターが発生しました。発生源を特定することは出来ませんでしたが、コロナ感染発生確認後、直ちにとられた防護措置を全く無視するかのごとくに、施設内に広がりました。

行動制限エリアを設定し、介護に当たる職員は防護服を着用する等の対策を講じても、感染は職員にまで拡大してしまいました。

### 風の子保育園・ともの家も 苦勞の連続・・・利用制限が難しい「福祉事業」

——過重な勤務態勢のなかで 職務を果たしてきた職員にご理解を——

風の子保育園では、クラスターこそ発生はしませんでした。この間、子供たちや職員が入れ替わりのように濃厚接触者になったり、感染者になったりで、クラス運営は苦勞の連続でした。

ともの家の仲間たちは、個性豊かで日常の行動パターンの変化には、強い抵抗感があります。マスク着用だけでも大変な状況下で生活習慣を変えさせるのは職員にとって大変な事であったろうと思います。

感染拡大防止には、利用停止や交流制限などが一番有効な方法です。しかし、家庭での介護、育児負担の増大は元より、高齢者にとっては身体機能や認知機能の低下、保育においては夏祭りや運動会、日常の子供どうしのふれあいなどの制約によって、子供の発達や思い出作りを考えると、単純に中止や行動制限は出来ません。

申しあげましたような状況下で、職員たちは自らの感染の危険と、休まざるを得ない職員の代替えも含めて、過重な勤務体制のなかで職責を果たしてきたことをご理解くださいますようお願いいたします

## 関係者・職員の台風 15号での甚大な被災に 心よりお見舞い申し上げます

**あすなろの事業所も・・・** 風の子保育園は給食室が浸水、月曜はおむすび持参とお休みの協力をいただき、27日より給食再開で通常保育に。ともの家各施設は全て断水で1週間閉鎖、部分的日中支援を経て、10月3日より全施設業務再開。あすなろの家は北側道路を土砂が流出、入口前からバスターミナルを被い進入が一時妨げられました。住民の皆さんには、シャワーや洗濯機の開放、高齢者世帯へ生活水の配給等、地域と協力し、支援しました。

一番の被害は、バロー地階に出店のひかりサロンで、地階が浸水し、復旧の目途は立っていません。そこで、会場をあすなろの施設内に移動して、26日より利用を継続しています。

## 長く苦しい1ヶ月を乗り越えました！



新型コロナウイルス第7波、感染拡大がニュースを賑わすようになっていた7月下旬、あすなろの家にもついにコロナウイルスが入ってきてしまい、そこまで高い意識で必死にウイルスを侵入させぬよう持ちこたえておりましたが、今回の感染力の強さにはお手上げとなってしまいました。

感染はデイからショート・特養、職員にも～防護服で汗かくでも…

感染はデイサービスから始まり、ショート、特養とあっという間に拡がり、多数のご利用者、職員が陽性に…。

多数の職員の感染により、サービスを提供するという当たり前のことが不可能な状態になり、デイサービス、ショートステイは休止という形を余儀なくされてしまいました。

特養に関しても、感染しても病院での受け入れは不可能なので、あすなろの家の中で療養していただく他方法はなく、施設内にレットゾーンを作り感染者を隔離。職員は防護服、キャップ、グローブ、フェイスシールド等で感染対策を行いながら、最低限のケアのみ行うという体制をとりました。

感染者がどんどん増えていく中、ピーク時には部屋の中にベッドが入りきらず、廊下にベッドを置かせてもらい、ケアする場面も見られました。

また、状態が悪化のご利用者を救急搬送しても、受け入れ困難という事で夜中にお迎えの要請があり、動いた場面もありました。

職員に関しても、防護服などで汗かくになりながら対策はしていても、次から次へと感染…。職員からの陽性の連絡が入るたびに勤務を調整…。

日々の勤務者を減らし、夜勤者を繋ぎ、次の日の勤務を組むことの繰り返しでなんとかなんとか繋いできました…。

8月22日ショートステイの受け入れを再開し、あすなろの家のすべての業務が日常に戻ることが出来ました！コロナ終息！！長く苦しい1か月でした。

なにもできないーやりきれない毎日！…救いはご家族の励まし、職員の団結

振り返ってみて、本当にきつかった～というのが正直なところです。当たり前にサービスを提供できないことで、ご利用者ご家族がどんなことになってしまうのか、容易に想像できる。それなのになにもできない、悔しく苦しく、申し訳なくやりきれない毎日でした。

そんな中、救いとなったのは、ご家族の皆さんからの励ましのお言葉。それからなんと言っても職員の明るさと団結力でした！

本当にあすなろの職員さんの底力を見ることが出来ました！

対策の再確認をしながら、利用者に早く元気になっていただく丁寧なケアを

本当に多くの皆様にご迷惑をおかけしましたことを心からお詫び致します。同じことを繰り返さないよう、再度対策の確認を行いながら、今回療養によりレベルダウンしてしまったご利用者に早く元気になって頂けるよう日々のケアを丁寧に行っていきたいと思っております！

## 感染拡大を抑えながら、負担を最小限に

### 濃厚接触者の判断に苦労！

濃厚接触者に伴う園児の自宅待機は、9回ありました。園児の陽性に伴い、私たちが一番苦労していることは、濃厚接触者の判断です。

それまでは、幼保支援課に報告し相談した上で濃厚接触者の判断をしてきましたが、7月から陽性者の報告はメール連絡へと変わり、『濃厚接触相当者の判定基準』をもとにあくまでも『園の判断』となり、これは役所から園へ責任転換されたのだと思います。

### 負担大きい自宅待機…最小限にする努力

～「これで良かったのか？」の葛藤も

一番は子どもの健康を考え、感染が拡大しないことです。

しかし、陽性者が出るたびに繰り返される、自宅待機は子ども、保護者への負担は大きいです。だからこそ、その時の保育状況を確認し慎重に判断すると共に、休日を利用して自宅待機期間を短縮するなど、子ども、保護者の負担を最小限にできないか考えてきましたが、「これで良かったのか？」と葛藤を繰り返しているのが事実です。

それでも、保護者の皆さんが園の判断に対してご理解とご協力いただき、園内での感染拡大がされていないことに深く感謝しています。



## コロナ感染の2年半を振り返って…感染者を悪とする風潮も

2019年1月末 ダイヤモンド・プリンセス号が横浜港に停泊した映像が鮮明に脳裏に焼きついています。

身近に感じてきたのは2020年に入ってからで、「濃厚接触者」という聞きなれないフレーズに戸惑いながら、オリジナルガイドラインを作成しました。緊急事態宣言の発令や、コロナ感染者を悪とした風潮、一番神経を尖らせ、不安に感じていた時期です。

### 「仲間の健康と日々の笑顔 を守ること」をモットーに

ともの家の仲間たちは、障害の程度や障害の特性によって、理解度に差があり、それによって不安の度合いも違います。また障害の特性ゆえに、大きな恐怖に苛まれ、薬を増やすことになった仲間もいました。

私たちは「仲間の健康と日々の笑顔を守ること」をモットーに、コロナ禍で起きた様々な出来事をポジティブ変換し楽しんできました。数名の感染者は出ていますが、幸いにも、笑顔で活気のある日々が継続されています。

草薙球場オープン戦 お目当ての選手が先発するか予想中です。なんと「マーくん」投げました。みんな大興奮！



## コロナ禍でもできることは？

## ・・・新たな保育実践を

「コロナ禍でもできることは、何か？」を考え、保育してきた昨年度。

その経験から「今年は、こうしてみよう？」と、もう一步前進した保育の取り組みを実践しています。感染対策は必須ですが、新たな保育実践を考えていく中で、私たちは柔軟に頭を働かせ“子ども・保護者・職員にとって”に立ち戻り、これからも前進していきたいと思えます。

### 保護者とともに取り組んだ 夏まつり「ごっこ」

前半の保育では、保護者の保育参加、5歳児合宿保育、夏まつりごっこを行いました。

夏まつりごっこでは、昨年度の見せられなかった5歳児の太鼓を、保護者に披露しました。また、父母の会の夏まつり実行委員さんの力を借りて、お店屋さんを開催しました。保護者がお店屋さんになることで、子どもとのやり取りがスムーズになり密を防ぎながら、みんなで楽しむことができました。

保護者と共に行った夏まつりごっこは、まさに“夏まつり”でした。

やり方を変えていく中で、「こういうやり方でも、できるんだね。」と新たな発見となりました。秋の保育では、運動会や5歳児祖父母の会を計画しています。



## 3年ぶりの総踊り・・・こぼれる自然な笑み

### —コロナ禍で船越公園でも練習

パン屋さんの仲間がメインの活動として「清水みなとっぼれ」の練習を2年半前より始めました。目標は「本気を出す」「清水みなと祭り総踊りにでる」事でした。1時間みっちり踊り、汗をかき、へトへトになりながら互いの顔を見合わせる。作業とはまた違った達成感がみなぎります。

コロナ感染まん延で、は一とびあが使用できない時は、船越公園で練習したこともありました。偶然ではありますが、With コロナ。工夫しながら楽しんできました。

### それぞれの楽しみ方・心身の幸福感が・・・

仲間たちの「かっぼれの」楽しみ方はそれぞれです。

「かっぼれ」の名前が心地よく響きが気に入っている仲間。講師のダンスと曲に合わせて踊る雰囲気が好き仲間。心身の幸福感が満たされることが活動を通して感じています。

8月5日、3年振りに行われた総踊り。全員参加は叶いませんでしたが、2時間夢中で踊り、非日常を存分に楽しみました。自然に笑みがこぼれるような表情を久しぶりに見ました。

